1．福祉・健康グループの現状認識

私たち福祉・健康グループは、現在の総合計画が掲げる目標「住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまち」に関して、現在の状況を以下のように捉えています。

① まちの環境について

○自然環境がとても豊かです
○とても素晴らしい風景があります
（合併して海、山、川が揃った！）

しかし

○市街地には「空き家が多い」「川が汚い」「子どもや高齢者の移動が不便」「道路が狭く危ない（特に冬期）」といった課題があります

② 福祉・健康分野の支援制度について

○子育てに関しては他市と比べても手厚いサービスが行われています
（妊婦健診、保育料、医療費・薬代に対する補助など）

しかし

○高齢化が進んだためか、子育てと比較して高齢者に対するサービスは低下したという印象があります
○悩みを抱えた親への対応、発達障がい者への支援・理解などまだ不十分なところもあります（相談機能等）

③ サービス等が受けられる“場所”について

○自然を楽しむ施設、スポーツをする場所がたくさんあります
○ほっとＨＯＴ・中条などの拠点施設や各地域には集会所もあります
○松原牧場や胎内平はもっと有効活用ができそうです

しかし

○優れた施設があっても「知られていない」「入りづらい」等の理由で充分に活用されているとは言えません
○送迎なしで通える身近な遊び場（雨雪の日でも利用できる手入れの行き届いた公園等）がありません

④ 福祉や防災等を支える“人”や“地域”について

○子ども見守り隊や施設運営等に協力するボランティアがいます
○囲碁・将棋や踊りの会などの趣味の活動が盛んな地区や、防災等の地域活動が熱心な地区もあります

しかし

○一部の人の活動に留まっていて、横のつながりも少ないため、良い取組が思うように広がっていません
○地域活動は“リーダー次第”という現状があります

2．まちづくりの方向性

ここまでの議論を整理すると・・・・
「安心・快適に暮らす上で不便な点や困り事がまちの中には隠れている」
「良い制度や施設、サポーターが存在するが困った人には届きづらい」
「専門的なサポートが不足している分野もある」
という課題が胎内市にはあります。

我々のグループでは、そんな現状認識を踏まえて、

誰のどんな悩みにも ワンストップで対応できるまち

をまちづくりの目標に設定します。

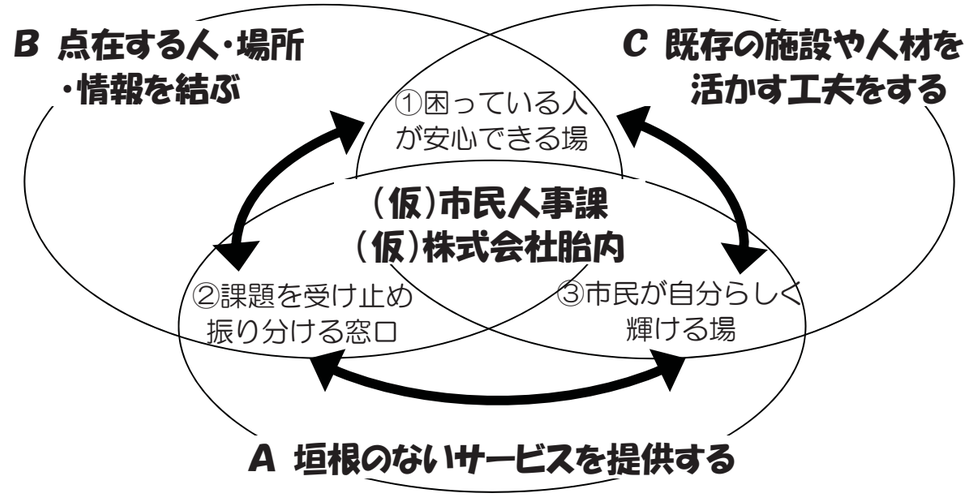
そして、この目標を実現するために　これからは

A 垣根のないサービスを提供する（オープン化）
B 点在する人・場所・情報を結ぶ（点を線に、線を面に）
C 既存の施設や人材を活かす工夫をする（マイナーチェンジ）

（という視点を持って施策を展開する）ことが重要だと考えています。

3．目標を実現する施策案

困っている人のための入口となる場所（①）があり、そこですくい上げた課題を受け止め解決するための窓口（②）があり、市民がこうした取組のサポートに力を発揮するための仕掛け（③）がある。
これらを１つのパッケージにまとめた「**（仮称）市民人事課**」あるいは「**（仮称）株式会社 胎内市**」の仕組みにより、誰のどんな悩みにも ワンストップで対応できるまちの実現を目指します。



① 困っている人が安心できる場をつくる

困っている人が足を運びやすいような、自分から声を上げられない人に気付いて声をかける人がいるような場を設けて、市民の悩みをすくい上げることができる（さりげなく福祉を提供する）仕組みをつくります

＜具体的なイメージ＞
○行政の窓口や図書館、公民館等の複数の機能が入った拠点的施設
○送迎や子どもの預かりなど困っている人が利用しやすい環境が整っている
○買い物のついでやお茶を飲んで一休みしたい時にふらっと立ち寄れるような場所が上記と併設または単独で存在する

＜実現の方法＞
○行　政は　☞ほっとＨＯＴ・中条等の施設をもっとオープンにする
☞公共施設の新設や改修等にあたって、こうした場の併設を検討する
☞足を運びやすい雰囲気づくり、足を運ぶきっかけづくりに取り組む
☞市民の目につきやすい情報発信に取り組む（電光掲示板の活用等）
○市　民は　☞（お節介と思われても）気になる人には声をかける
☞こうした場を周りに PR／足を運びやすい雰囲気づくりに協力する
○事業者は　☞お店等のスペースをこうした場として提供する

② 課題を受け止め振り分ける窓口をつくる

例えば、発達障がい者の就学支援と親に対する支援など、個別の支援策では解決できない複雑な課題に対して、行政の様々なサービスや支援ができる市民活動に適切につないで解決する仕組みをつくります

＜具体的なイメージ＞
○行政内の異なる部署を横串でつなぐ対応窓口（例“すぐやる課”）
○さらに行政と市民、ボランティア団体と社会教育団体等の垣根を越えて見渡すことができる窓口（例“市民協働課”）
○または、市民の活動やニーズを把握し、つなぎ役ができる外部コーディネーター

＜実現の方法＞
○行　政は　☞市民の悩みに対応するワンストップの窓口を設置する
☞何かしたいと思っている市民の背中を押す情報やきっかけを提供する
○市　民は　☞市民の側でも団体間や市民／行政の垣根を超えて積極的に交流を図る（輪を広げるために歩み寄る）

③ 市民が自分らしく輝ける場をつくる

市民が特技を活かす機会や困っている人を支援する機会を用意し、そのことを通じて、自然に健康でいられる／自分らしく輝くことができる仕組みをつくります

＜具体的なイメージ＞
○何かしたい市民とその特技などを登録する人材バンク
○ボランティア団体等の日常の活動拠点となり、活動を続ける／始める上でヒントやきっかけが得られるような場（「あそこに行ったら面白い話があるよ」という場）
○特技を活かす機会（できる人ができる時にできることをやる）の情報の発信基地

＜実現の方法＞
○行　政は　☞人材バンクの仕組みをつくる
☞市報等で「こんなことができる人」を呼びかける
☞市民の活動に対する助成等の支援策を検討する
☞こうした取組の実施にあたっては市民（特に若者と女性）に意見を聞く
○市　民は　☞１人１人が「私がやる」の気持ちで積極的に協力をする
☞市民活動が生まれる下地となるような集まって話ができる場を設ける（そのために誰かが音頭を取る）
☞フリーペーパーの発行など市民発の情報発信に取り組む
○事業者は　☞市の一員として人材バンクに協力する
☞各種のイベントや支援制度等に関する情報発信に協力する（電光掲示板やフリーペーパーなどの枠）

④ 関連する具体的な提案

①～③を実現する具体的な方策またはこれに関連する事項として、以下の内容を提案します

＜具体的なイメージ（福祉分野１）＞　⇒***C***

〇胎内市の優れた環境を活かして新しい安心できる場、支援の場を設ける
〇例えば、松原牧場で心のケアを必要とする人のための癒しのプログラムを提供する
〇例えば、胎内平で障がい者スポーツ大会を開催する

＜具体的なイメージ（福祉分野２）＞　⇒***C***

〇空き家等を改修して、市民が集まり新しいつながりが生まれる場を設ける
〇例えば、世代を超えて交流できる場所を設ける
〇例えば、市民活動の拠点や情報発信の拠点を設ける
※駐車場の確保や周りの住民の理解が課題

＜具体的なイメージ（健康分野１）＞　⇒***C***

〇雨や雪が降っても土の上で運動ができるような子どもの遊び場（広場や砂場、ロープのぼり等）／高齢者の健康づくりの場（グランドゴルフ等）をつくる
〇例えば、他自治体で見られるような全天候型の運動施設
〇例えば、（公園や神社等の公的スペースに）屋根を架けた予約不要の広場

＜具体的なイメージ（健康分野２）＞　⇒***C***

〇（雪が降って道路が狭くなっても）安全に歩ける道を用意する
〇例えば、スクールゾーンなどの歩行者優先の道路を設定し、必要な環境を整える（灯りや歩道等のハード整備の検討）
〇例えば、交通ルールの見直しや地域の見守り等のソフト対策を実施する

＜具体的なイメージ（福祉分野・健康分野）＞　⇒***A***

〇マッサージやネイル、お菓子づくりなど得意な趣味を提供できる機会（（仮称）闇市）をつくる
〇それを市民活動の育成の場、つながりづくりの場として活用する
〇例えば、商工会のイベントとしてマーケットを開催する

＜具体的なイメージ（防災分野）＞　⇒***B***

〇市民の力を活かして、もしもの時の備えの充実を図る
〇例えば、防災訓練や自主防災組織の立ち上げによりコミュニティづくりを進める
〇例えば、避難所等の運営を市民と一緒に検討する（備蓄の確保など）
〇その他、音量調節が可能な防災無線を配備する、仕事や観光で訪れた人に対しても防災情報を提供する　など

※括弧書きのタイトルの後に来るA、B、Cの文字は、８・９ページの分野のうちどの内容に最も関連が深いかを表します。